

群馬県・世界遺産登録目指す「富岡製糸場」

～関連産業含め地元の誇り～

日本不動産研究所 前橋支所
不動産鑑定士 原 孝幸

【世界遺産への正式推薦に沸く群馬県】

政府は平成 24(’12)年 8 月 23 日、「富岡製糸場と絹産業遺産群」をユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の世界文化遺産に推薦することを正式に決定した。県内では各地で祝賀イベントが開かれ、富岡製糸場ではセレモニーが行われ、お祝いムードに包まれた。

【「富岡製糸場と絹産業遺産群」の概要】

富岡製糸場は、日本で初めて西欧から最新の技術を導入して明治 5(1872)年に設立された官営製糸工場である。その後、官営工場の払い下げ計画により、明治 26(1893)年に三井家に払い下げされ、昭和 14(’39)年には日本最大の製糸会社であった片倉製糸紡績株式会社（現・片倉工業株式会社）に合併された。その後、戦中戦後と長く製糸工場として活躍したが、生糸値段の低迷などによって昭和 62(’87)年にその操業を停止した。現在は富岡市の所有となっているが、操業当初の建築がほぼ残存し、停止時の機械設備、事務所、女子寄宿舎等附属施設も完全に残されている。



「富岡製糸場の内部」撮影協力 富岡市・富岡製糸場



「製糸場の東側入り口」撮影協力 富岡市・富岡製糸場



「東繭倉庫の外観」撮影協力 富岡市・富岡製糸場

絹産業遺産群としては、換気を重視した蚕室の原点である「田島弥平旧宅」(伊勢崎市)、標準養蚕技術の確立と普及に貢献した養蚕教育機関であった「高山社跡」(藤岡市)、蚕の原卵である蚕種を夏期に保存した冷蔵施設「荒船風穴」がある。

富岡製糸場は、我が国最古の本格的工場であり、国家が創った 30 数カ所ある官営工場中で最大規模かつ現在でも生産設備がほぼ完全に保存される唯一の施設である。また、関連する遺産群は、軽工業、特に絹業生産の生産工程を、原料生産から製品まで総体として網羅しており、産業遺産が地域的、生産関連的まとまりをもって存在する希少な例と考えられる。日本の近代化の原動力となった当時の建造物が世界遺産登録されるのは、地元民からすると誇らしい限りである。

【今後の見通し】

来年夏頃にはユネスコ諮問機関の国際記念物遺跡会議(イコモス)の現地調査が実施され、平成 26(’14)年の世界遺産委員会で登録の可否が決まる見通しである。現在日本で世界遺産登録されている文化遺産は、法隆寺地域の仏教建造物(平成 5(’93)年 12 月)、姫路城(平成 5(’93)年 12 月)等 12 箇所ある。従来政府が世界遺産に推薦して落選することはなかったが、平成 20(’08)年の平泉で初めて登録延期の決議がなされた(その後平成 23(’11)年 6 月に登録)。平泉ショックの反省を踏まえて今回は絹産業遺産群の推薦施設を厳選する等の対応が取られているが、今後順調に登録までこぎつけてほしいと切に願う次第である。